

長野県駅（仮称）駅舎外観デザイン アプローチノート

2026 年 9 月
東海旅客鉄道株式会社

【 デザインコンセプト 】

— 信州・伊那谷の景^{けい}を 未来と紡ぐ 結い^{いえ}の舎 —

(風景 / 暮らし / 出会い / 想い)

当社はこれまで鉄道事業を通じて数多くの地域と地域を結び、人と人をつないできました。リニア中央新幹線は東京～名古屋～大阪の日本の大動脈輸送の二重系化に加え、大都市と長野県をはじめとする新たな地域が結ばれ、更なる人と人とのつながりを生み出します。

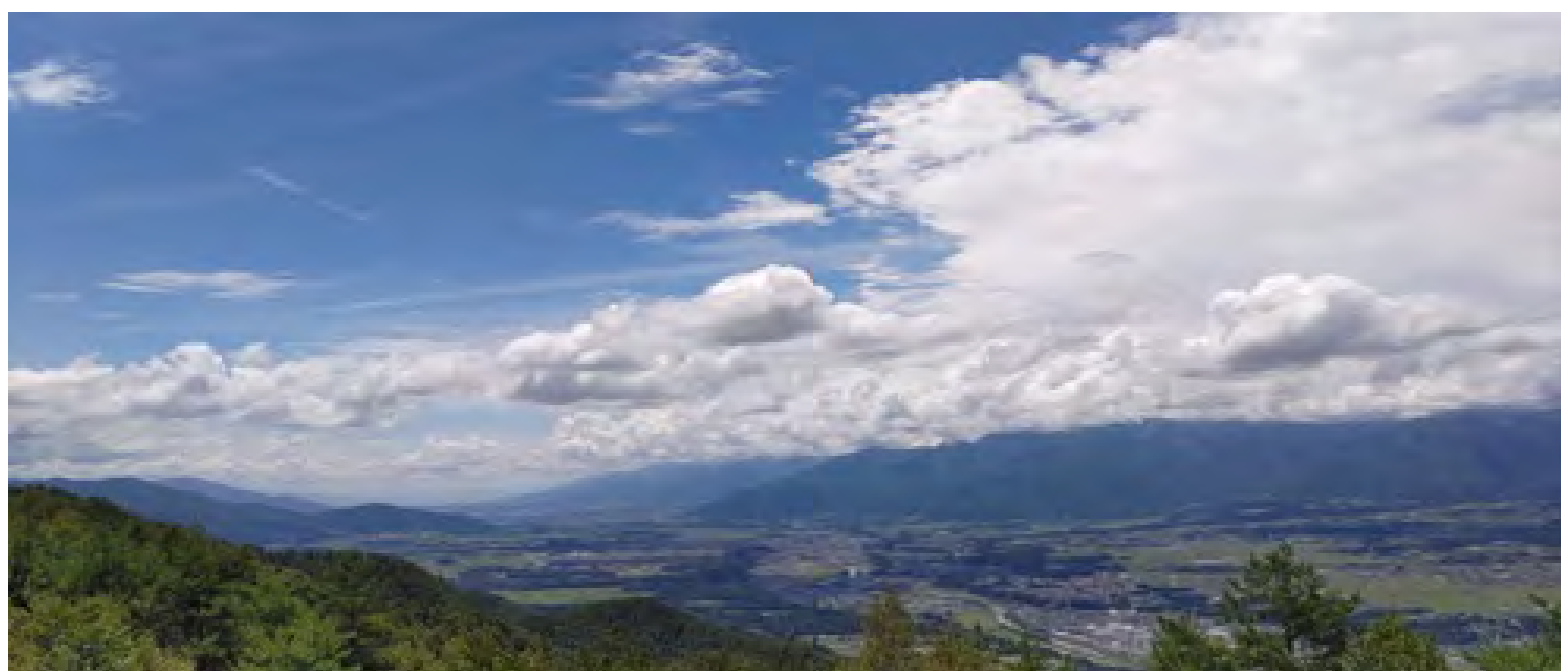
リニア中央新幹線の中間駅の一つである長野県駅(仮称)ができる伊那谷は、中央アルプスと南アルプスや伊那山地に囲まれ、中央に天竜川が流れる雄大で豊かな景観が広がっています。

このような環境のもとで、人々は自然と調和しながら暮らしを営み、独自の文化を育んできました。

リニア中央新幹線の開業は、この南信州地域と各地を結び、新たな人と人のつながりを生み、これまでの暮らしにも大きな広がり生まれることが期待されます。

新たなつながりをつくる起点としての駅舎が単なる移動拠点に留まることなく、初めて訪れる人にとっては南信州地域を感じられ、この地の人々にとっては地域の象徴として誇れる場所となるように、駅舎を含めた風景が新たな出会いへの期待感を感じ、郷土への愛着を醸成する「伊那谷の景」となっていくことが大切だと考えています。

新しくできる駅舎は暮らし・出会い・人の想いを紡ぐことで、これから先の新しい「伊那谷の景」となり、これらが交わり結ばれる「結いの舎」となります。



【 駅舎外観デザインの考え方 】

1. 駅舎外観デザイン方針

- ・リニア中央新幹線らしさを感じ、地域の象徴となるデザインとします。
- ・景観との調和、駅前空間との調和を図ります。

2. 「景観」や「駅前空間」と調和を図るために基本とする資料

長野県・飯田市より受領した「キーワード・モチーフ」



飯田市が作成した「飯田・リニア駅前空間デザインノート」

駅前空間の随所に配置される大屋根のデザインやイベントイメージからは、モチーフの「営み」から連想される繊細さや光と影の陰影を感じます。



南北の駅前広場には、伝統工芸の繊細さが感じられる木造の大屋根が配置されます



駅前広場は交流やコミュニティの場として伝統芸能やお祭りなどのイベントが開催され賑わいが想定されます

出展「飯田・リニア駅前空間デザインノート2024」

3. 駅舎外観デザインの検討

- ① 駅舎外観デザインは「風景」のモチーフを基調とします。
 - ・「風景」を基調とすることで景観と調和させます。
 - ・駅前広場からイメージされる「営み」と合わせてモチーフ全体が表現されます。
- ② 基調デザインにリニア中央新幹線の未来感・疾走感を取り入れるほか、「営み」の要素を取り込んでデザイン案を描き起こします。

4. イメージパース視点場

イメージパースは北側と南側の両面から駅舎イメージを捉えることができるように、下記の2つの位置から見たものを作成します。

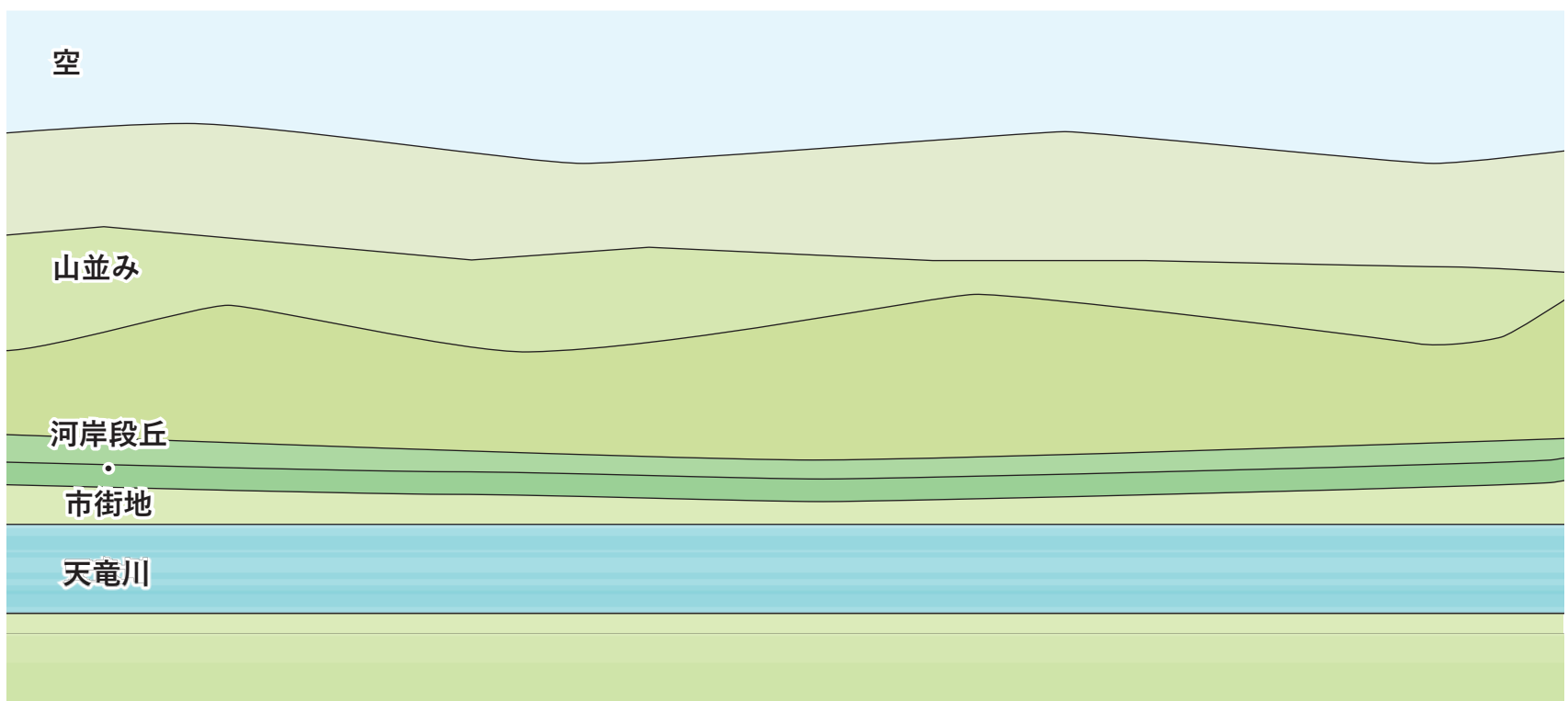


【 デザイン案 A 】

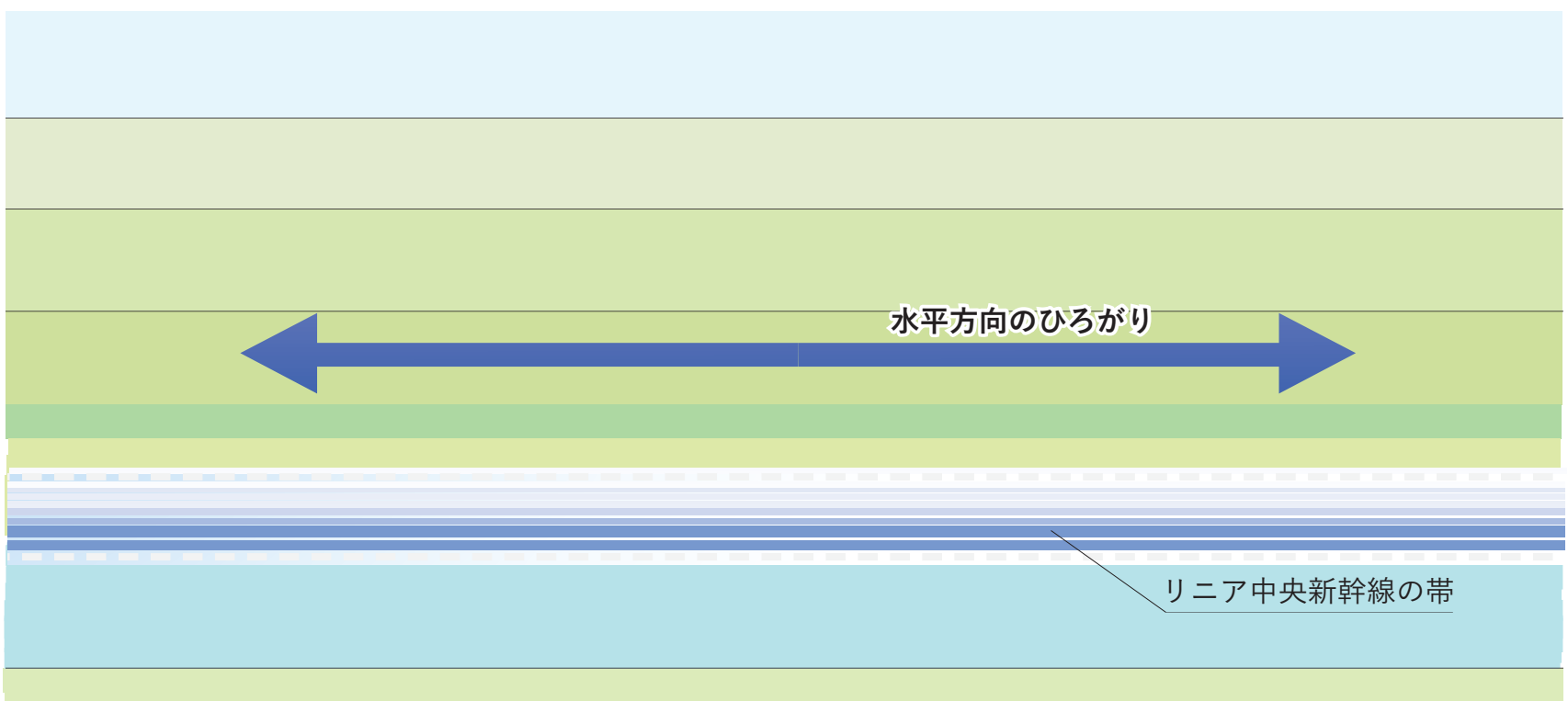
- ① モチーフの読み取り 信州・伊那谷では、天竜川の流れと並走するように、アルプスの雄大な山並みや、河岸段丘、市街地、棚田などが、水平方向に連なる風景が特徴のひとつです。



- ② モチーフの模式化 この風景を谷と並行にみると、山並み、河岸段丘、市街地、天竜川といった自然の要素がのびやかに連なり、風景の中に水平なラインが見えてきます。



- ③ 模式図の単純化 この風景は、自然や人の営みが長い年月をかけて築き上げてきた結果として現れたものであり、「帯」のように水平方向に流れる秩序ある形状として表現することができます。

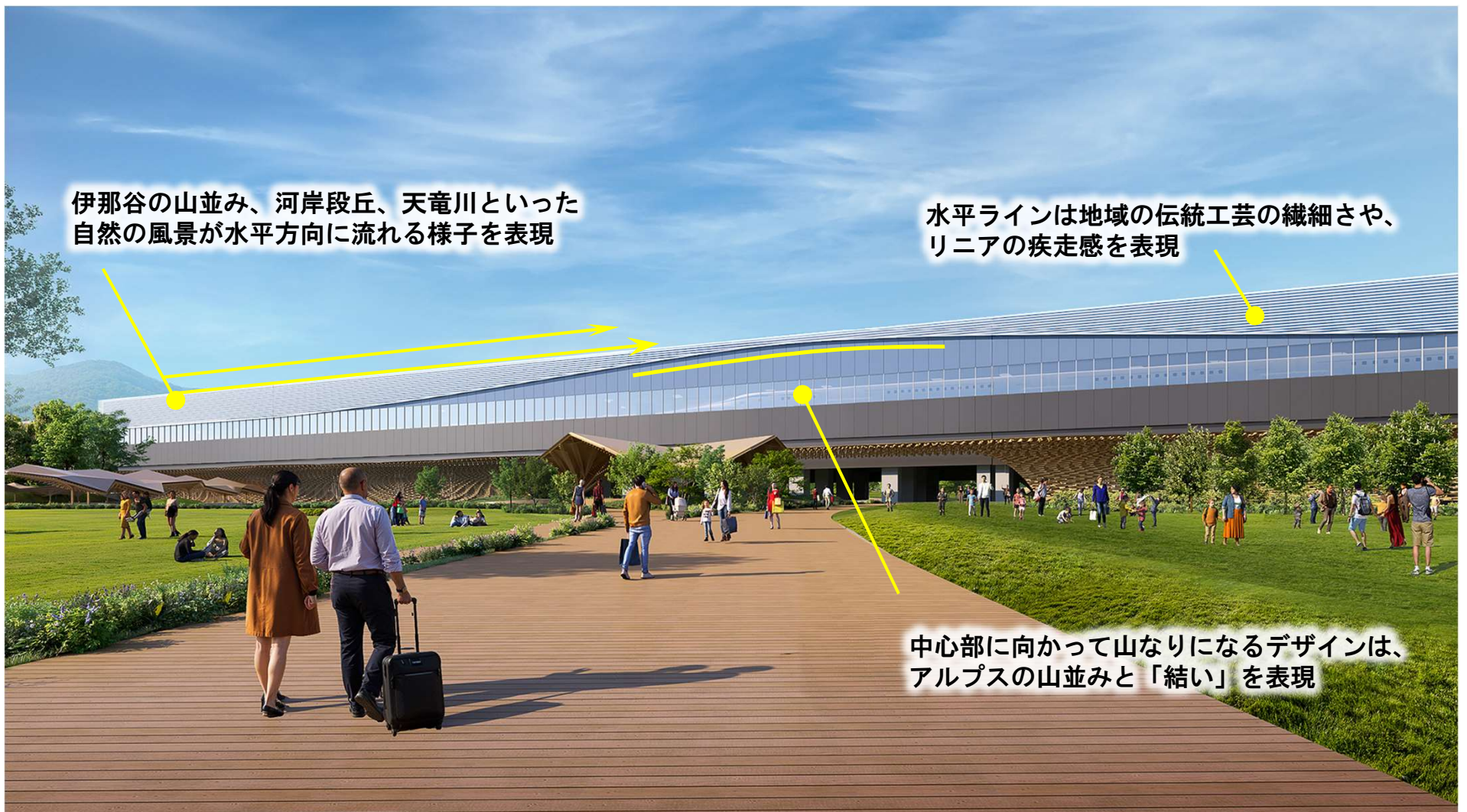


リニア中央新幹線は、水平方向にひろがる信州・伊那谷の風景の中を走る、新たな「帯」となります。

信州・伊那谷の風景に流れる「ひとすじの帯」

～ のびやかな風景、水平方向に広がる景観 ～

南側イメージ



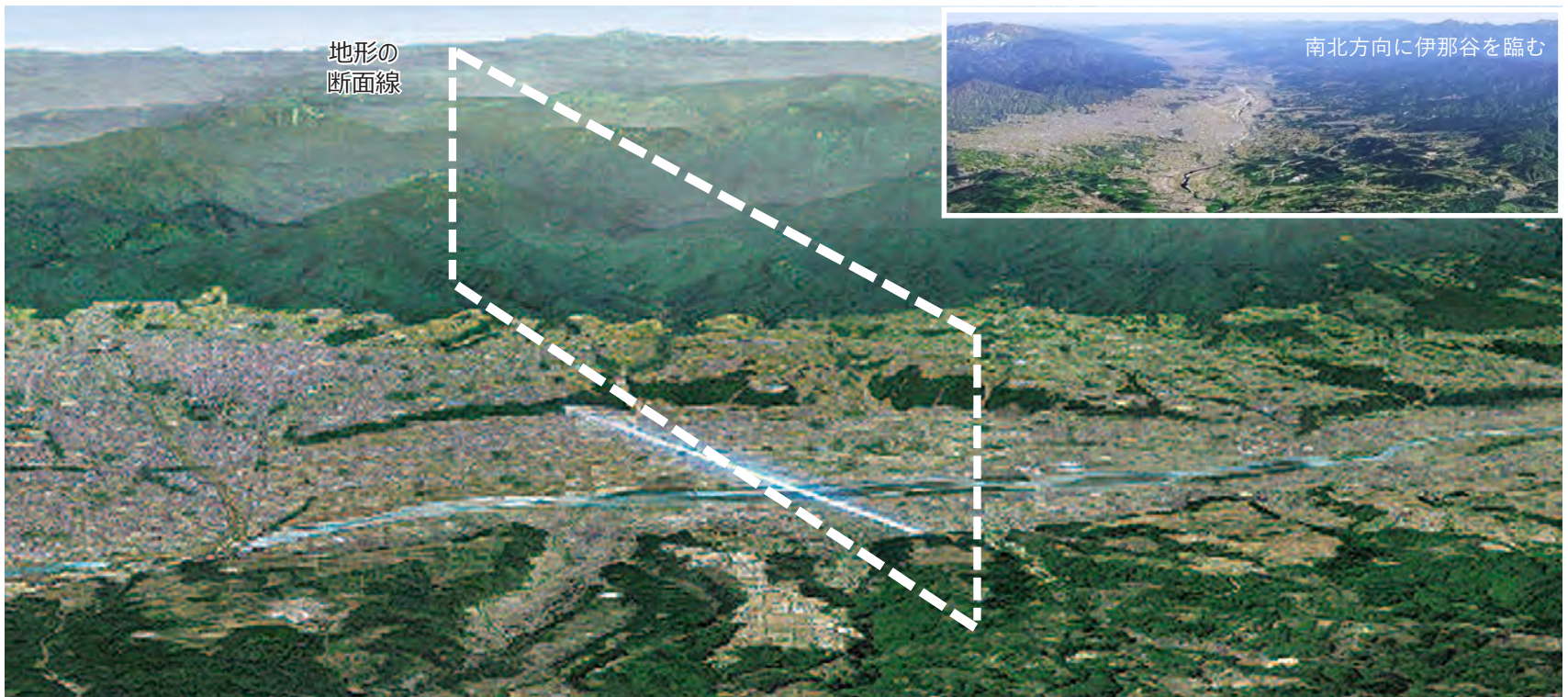
- 伊那谷の山並み、河岸段丘、天竜川といった雄大な自然の風景が水平方向に流れている様子を「帯」として表現しています。
- 水平方向に長く流れるデザインは、伝統工芸などからイメージする繊細さやリニア中央新幹線の疾走感を表現しています。
- 水平ラインが中央部で山なりになるデザインはアルプスの山並みと「結い」を表現しています。
- 外壁色は金属調の無彩色とすることで自然景観や駅前広場との調和を図るとともに未来感のあるものとします。

北側イメージ



【 デザイン案 B 】

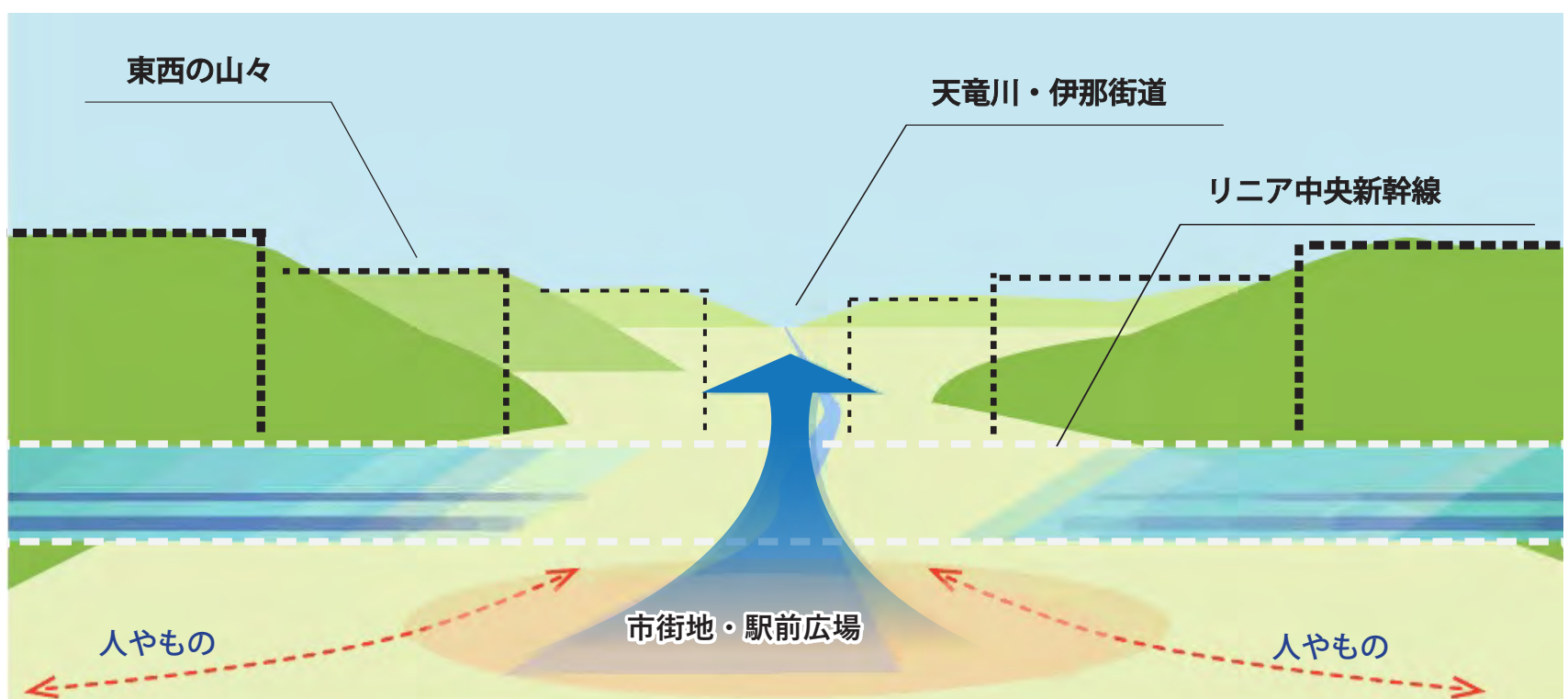
- ① モチーフの読み取り 信州・伊那谷は、アルプスや伊那山地に挟まれた谷地形であり、天竜川に沿って南北方向に視線が遠くまで抜ける伸びやかな景観が形成されているのが特徴のひとつです。



- ② モチーフの模式化 谷を囲む山々は、人々の暮らしを包み込み、豊かな恵みをこの地へと集めてきました。その恵みが集積する谷には人々が集い集落や市街地が形成され、天竜川や伊那街道を中心に人々の営みや交流が生まれ発展して来た特徴が見えてきます。



- ③ 模式図の単純化 「東国と西国」、「山と海」の結節点として発展してきた伊那谷は、そびえ立つ東西の山々と、人やものが集まる中央部の空間に大きく分けることができ、その様子は自然が作り出した玄関口として表現できます。

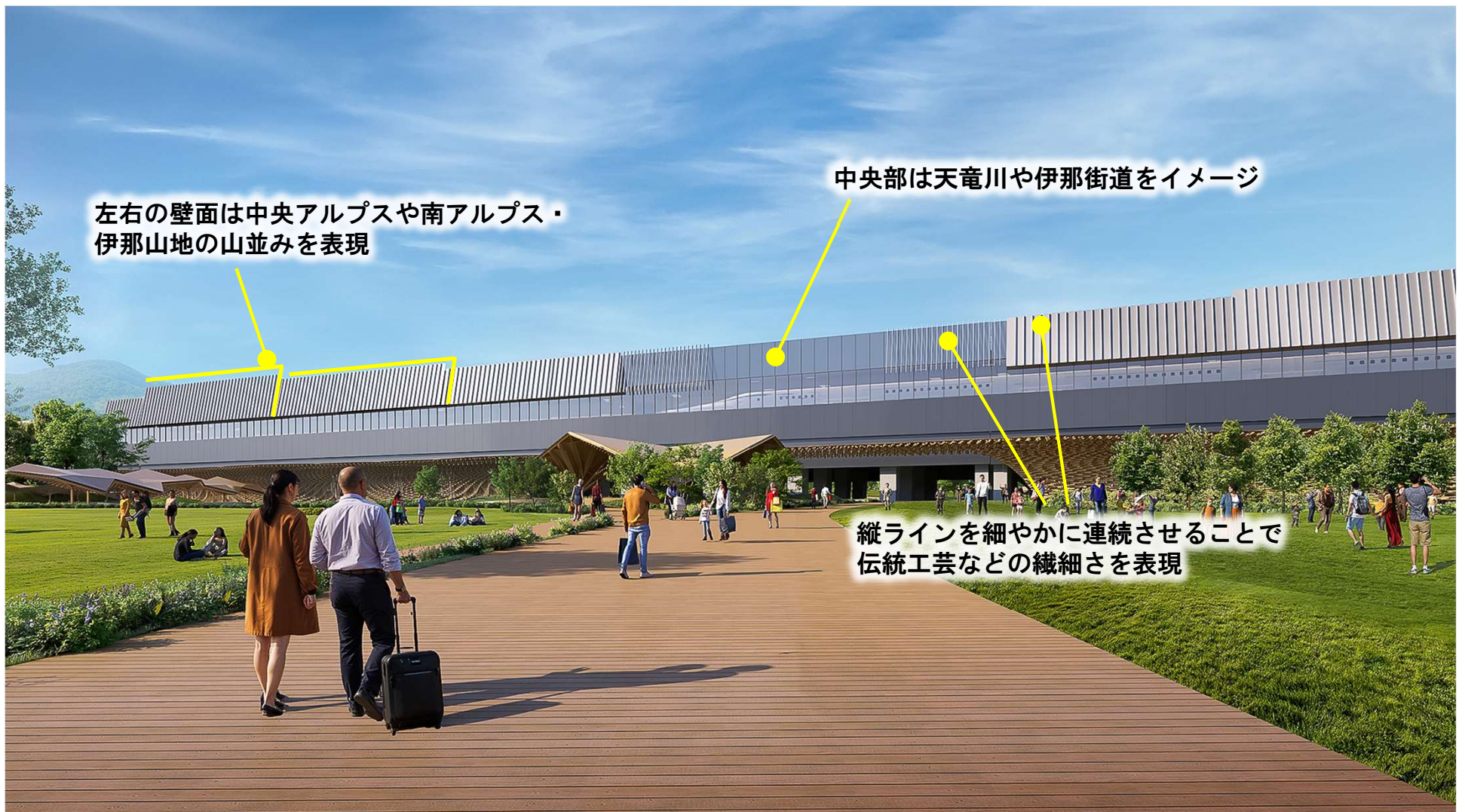


リニア中央新幹線開業後、駅前空間中央に人が集まり各地とつながる様子は伊那谷の特徴と重なります。

信州・伊那谷に包まれた「玄関口」

～ アルプスや伊那山地に包まれた谷地形、天竜川、伊那街道 ～

南側イメージ



- 天竜川を中心に中央アルプスや伊那山地で囲まれた伊那谷の地形と「東国と西国」、「山と海」を結ぶ結節点として発展してきた地域の特性を重ねて「玄関口」として表現しました。
- 左右の壁面は中央アルプスや南アルプス・伊那山地の山並みを表現し、駅舎の中央部は天竜川を中心に各地を結ぶ結節点であるこの地に人々が集まってくる様子を表現しています。
- 縦ラインを細やかに連続させることで伝統工芸などの繊細さを表現しています。
- 外壁色は金属調の無彩色とすることで景観への調和に配慮するとともに、リニア中央新幹線の未来感を感じられる色とします。

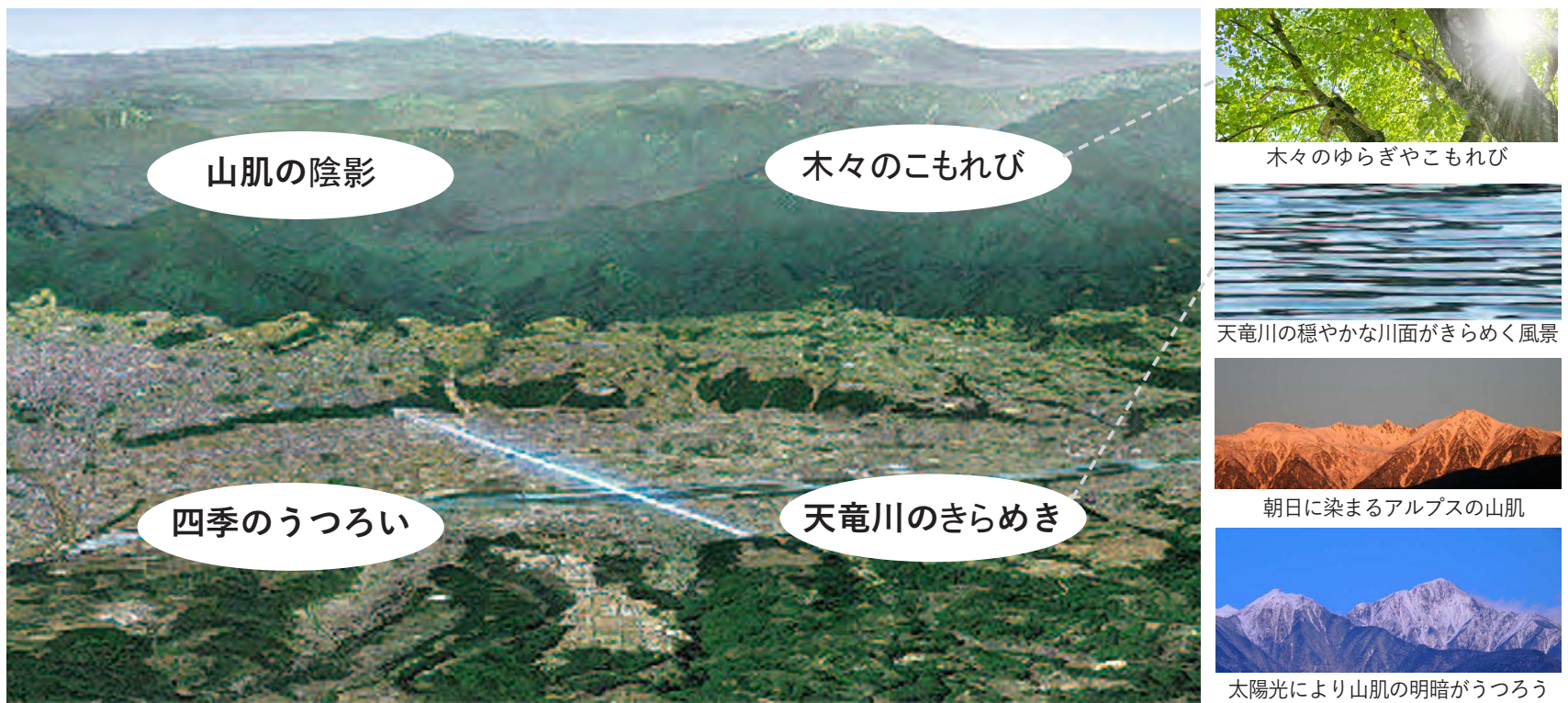
北側イメージ



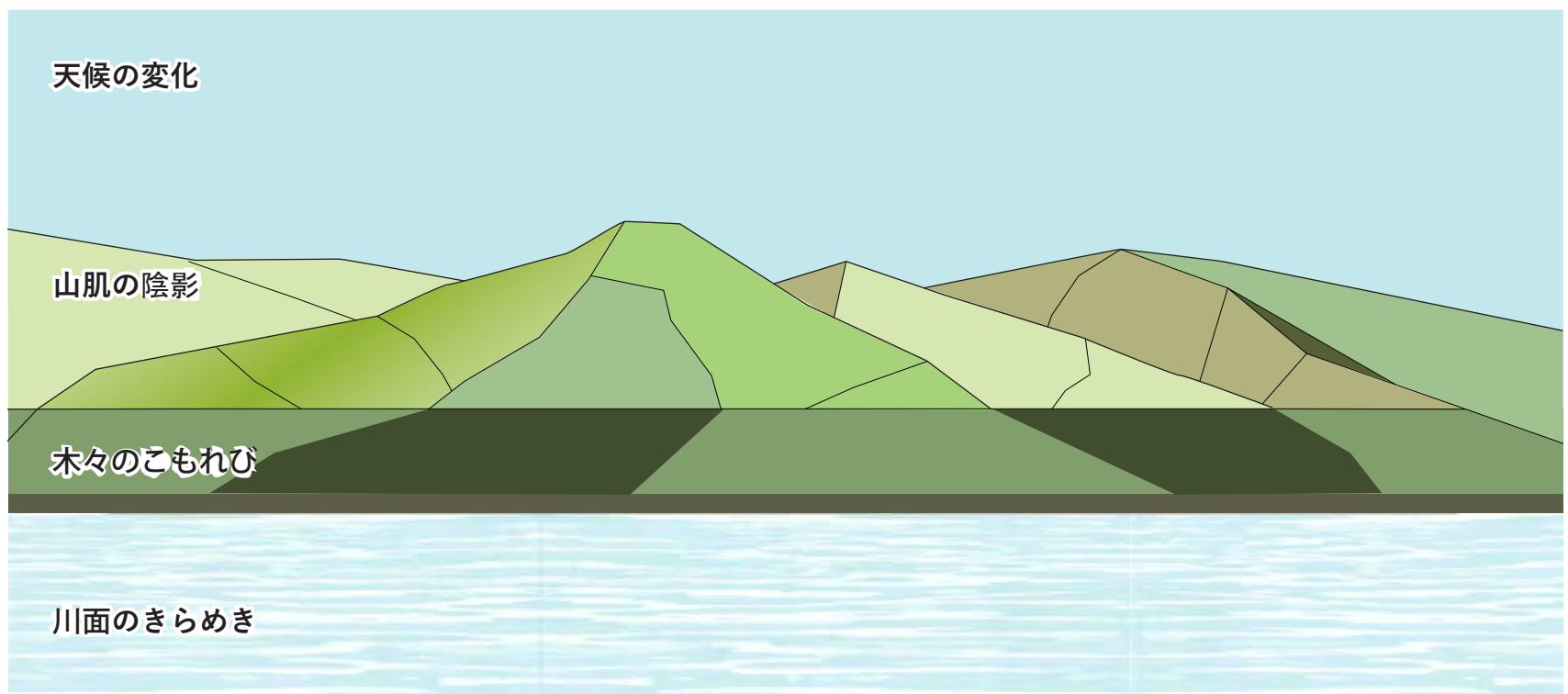
イメージパースのため、実際の完成形とは異なる場合があります。

【 デザイン案 C 】

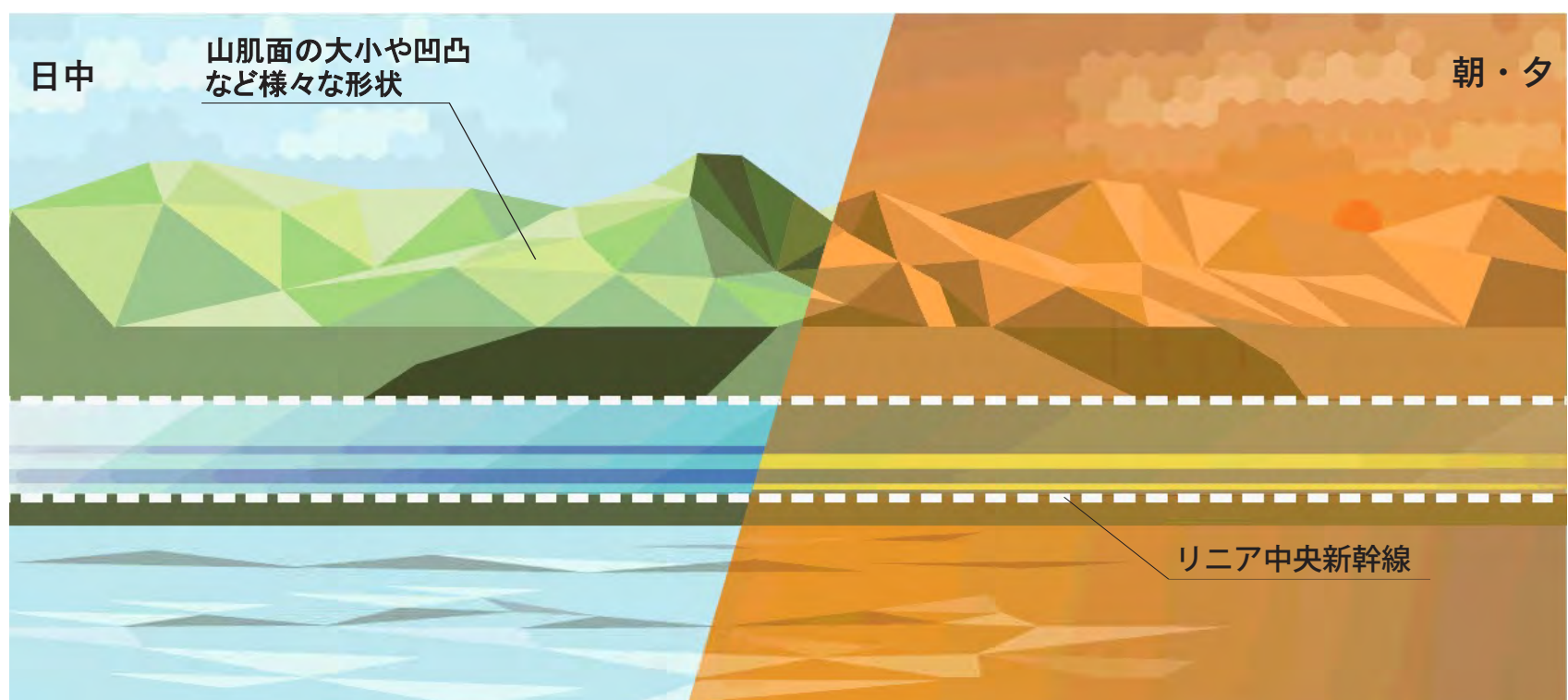
- ① モチーフの読み取り 信州・伊那谷では、風や天候、季節の変化による四季のうつろい、川面のきらめきや木々のこもれび、山肌に落ちる陰影といった多種多様な自然のうつろいが特徴のひとつです。



- ② モチーフの模式化 これらのうつろいは、川面のきらめきや木々のこもれびといった小さなものから、山肌の陰影の変化といった大きなものまで多様なスケールでのゆらぎを生み出しています。



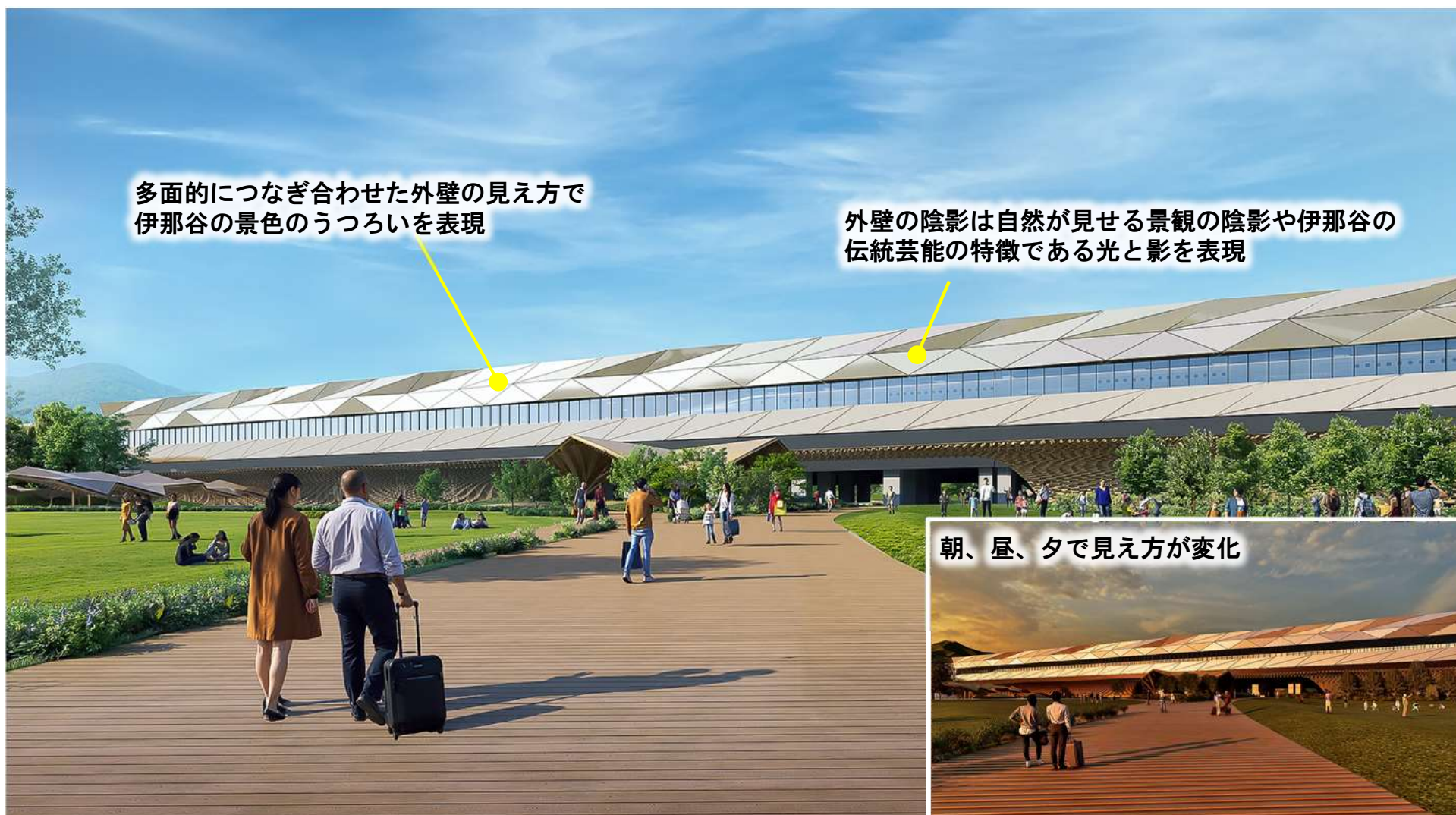
- ③ 模式図の単純化 四季や時間により刻々と変化する自然のうつろいは、稜線に沿った山肌面の切り替わりや、川面のさざ波、木々の密度の違いによって知覚することができることから、面の大小や凹凸などにより表現することができます。



信州・伊那谷の風景にゆらめく「自然のうつろい」

～ 光と影のうつろい、天竜川のきらめき、風景の変化 ～

南側イメージ



- 季節や時間、天候の変化によって見え方が変わる伊那谷の景色の特徴を「うつろい」として表現しました。
- 多面的につなぎ合わせた外壁への光が刻々と変化し見え方が変わるにより、雄大な自然が見せるきらめきや陰影、伊那谷の伝統芸能の特徴である光と影を表現しています。
- 多面的につなぎ合わせてできる立体的で幾何学的なイメージはリニア中央新幹線の未来感を表現しています。
- 外壁色は淡い山吹色などとする事で朝や夕のうつろいをより感じられるようにします。

北側イメージ



イメージパースのため、実際の完成形とは異なる場合があります。

